

神戸医療生協支援ニュース

2011年4月25日 第21号

■現地レポート

お疲れ様です。いたやどクリニックの横治高志郎です。

振り返ると1週間早かった。私は避難所の事務局を4日間しました。特に最後の3日間は自分と向き合い、仕事と向き合い、スタッフと向き合った日々でした。限られた医療器具、薬の中で避難所での診察は次の医療機関に繋げるといのが本来の目的ですが、みなさんそれぞれがいろんな意見を持っていて、悪いところを改善するのと理想を求めるのは違う。時には本来の主旨から外れて来てるんじゃないのか。と事務局として悩んだ夜もありました。みなさんからでた提案を本部に持ち帰って、できる範囲の実現に全力を尽くす。無理な事にはスタッフにフォローの声かけを入れながら、日替わりのメンバーの中でどう円滑に回すのか。1日避難所を経験した人の中で次の日のキーパソンになって欲しい医者、看護師を決めて前の日に「明日も避難所お願いできないでしょうか」と声をかけて時間を作ってもらい、気持ちをお話させてもらって、事務では踏み込めない専門の部分を診察前に医者、看護師、薬剤師に意志統一をはかってもらいました。

その効果はかなりありました。限られた医療器具での対応や、使えないカルテ、避難所での診察という慣れない環境の中で、少なからずスタッフ側にも不安があるので、いかに準備と情報を共有して、やわらげていくか。どれだけ頑張っても1人では無理です。全体をまとめる人間は、自分が動いてしまうんじゃないかと、周りの人間を動かせる事が大事やなと思いました。そのためには信頼関係、チームワークを作る事が必要でした。

避難所4日間の日々は、すごく大変だけど充実した毎日でした。入職2年目で、この経験をできた事は財産。そんな感覚すらありません。医師とこんなに話す機会もなかなかなかった、福岡の看護師さんと夜中3

時まで話し合ったのも最終日を迎えた今となってはよかったのかな。と思います。

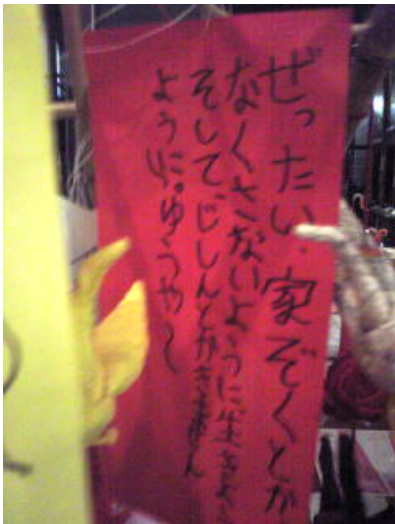
避難所に4日間いると、思い入れがあって…昨日の帰りは、もう多賀城文化センターに来る事ないんやな~と思うと寂しい感覚でした。

毎日会っていた子ども達は、人懐っこくて別れが辛かったです。人と人の関わりは情がうつれば別れは寂しい。「もう来ないの?絶対俺の事、忘れんといてよな。」

話していると、小学3年生の笑顔の裏には大きな傷をかかえていた。仮設住宅には入らず1年間、多賀城文化センターにいる予定という。文化センターのメインホールの片隅に短冊に願い事が書いてありました。

小学生の子が「ぜったい家そととかなくさないように、そしてじしんとかきませんように」と書いてあるんです。涙が出ました。夢はバスの運転手になりたい。と。

真っすぐ大きくなって欲しいです。



連休支援行動！応募します

- 5月2日(月) 19時貸切バスで出発
- 5月3日(火) 18時より、宮城県亘理郡山元町「真庭区民会館」で炊き出し。柴田町でホテルに宿泊
- 5月4日(水) 朝から~健康チェック活動
健康チェック終了後現地視察
宮城→柏崎 ここで宿泊
- 5月5日(木) 一路神戸へ 午後到着
・炊き出し内容→焼き肉+サラダ+ごはん
*健康共和国と連携して行く事になりました!
(現在8名応募。あと10名くらいはOKです)

連休のボランティア支援に行きませんか?

- *現地での焼き肉用の豚塊を切ります。包丁持参で来られる方大募集!
- *記録撮影をしたいのですが、機材はありますが、撮影出来る人募集!
- *5日の夜はまとめのミーティングも予定!